東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０12年5月11

天国とその住民の特徴

親愛なるムスリムの皆様

天国は、崇高なるアッラーが信仰するしもべのために用意され、様々な恵みで飾られた永遠の幸福の園です。絶対的な公正さの持ち主であられるアッラーは、試練であるこの世界で成功した者に、天国という褒賞を与えられます。行われた善は全て、見返りなく放っておかれることはないのです。天国と地獄は、このはかない世界に意義を与える、永遠の場なのです。

アッラーは天国を求める信者たちに次のように忠告を与えておられます。「あなたがたの主の御赦しを得るため、競いなさい。天と地程の広い楽園に（入るために）。それは主を畏れる者のために、準備されている。」（イムラーン家章 133 節）「だが信仰して善い行いに励む者は、われはやがて、川が下を流れる楽園に入らせ、永遠にその中に住まわせよう。アッラーの約束は真実である。誰の言葉がアッラーのそれよりも真実であろうか。」（婦人章 122 節）

来世と天国での生についての知識が、クルアーンやハディースで見られます。崇高なるアッラーはクルアーンの様々な箇所で、天国とその住民について私たちに次のように語られておられます。「われはかれらの心の中の怨恨を除き、かれらの足元に川を流す。かれらは言うであろう。「わたしたちをこの（幸福）に御導き下された、アッラーを讃える。もしアッラーの御導きがなかったならば、わたしたちは決して（正しく）導かれなかったでありましょう。主の使徒たちは、確かに真理を伝えました。」（声があり）かれらは呼びかけられる。「これが楽園である。あなたがたは（正しい）行いのために、ここの居住者となれたのである。」（高壁章４３節）

雷電章では、天国の住民について次のように示されています。「（即ち）アッラーの約束を全うし契約に違反しないで、結ばれるようアッラーが命じられる者と一緒になり、主を畏敬し、（審判の日の）悪い清算を恐れる者である。また主の御顔を求めて耐え忍び、礼拝の務めを守り、われが糧のために与えたものの中から、陰に陽に施し、また善によって悪を退けるような者は、（善）果の住まいを得る。かれらは、その祖先と配偶者と子孫の中の善行に励む者と一緒に、アドン（エデン）の園に入るであろう。そして天使たちも各々の門からかれらの許に入（ってこう挨拶す）るであろう。「あなたがよく耐え忍んだ故に、あなたがたの上に平安あれ。まあ何と善美な終末の住まいであることよ。」（雷電章 20－24 節）

信者たち章では、天国の住民となる信者について次のように描写されています。「信者たちは、確かに勝利を勝ちとる。かれらは、礼拝に敬虔であり、虚しい（凡ての）ことを避け、施し〔ザカート〕のために励み、自分の陰部を守る者。ただし配偶と、かれらの右手に所有する者（奴隷）は、別である。かれらに関しては、咎められることはない。しかし法を越えて求める者は、アッラーの掟に背く者である。また信託と約束に忠実な者、自分の礼拝を（忠実に）守る者である。これらの者こそ本当の相続者で、フィルダウス（天国）を継ぐ者である。かれらはそこに永遠に住むのである。」（信者たち章 1－11 節）

天国に入ること、アッラーの美を目にすることは大きな恵みです。クルアーンでは、「その日、或る者たちの顔は輝き、かれらの主を、仰ぎ見る。」（復活章 22－23 節）と呼ばれています。ただ、この全ての恵みを得る媒介となる、アッラーのご満悦を獲得することはより重要なことなのです。崇高なるアッラーは次のように仰せられています。「だが最も偉大なものは、アッラーの御満悦である。それを得ることは、至上の幸福の成就である。」（悔悟章 72 節）

今日のフトバをドゥアーで締めくくります。アッラーが私たちを、最後の審判の日によい形で裁きを受け、アッラーにまみえることをかなえさせてくださいますように。